

受身形 基本 ヴォイス		直接受身文 (他動詞) : 非情の受身	間接受身文 (自動詞/他動詞) : 迷惑受身文 持ち主の受身 主語は有生物が原則。持ち主受身は他動詞の目的語の位置に変化が無い		
受身を作る理由: 談話レベルの「視点」の統一は大切。		直接受身 主体が対象に働きかける事態を、働きかけられた対象の視点から述べた文。 先生が 学生 を 褒める。 2項 世界的に 学生が 先生 に 褒められる。 2項: 項の増減無し 一般的	間接受身 迷惑受身 = 被害の受身「友達に家に来られた」「妻に先立たれた」「弟に電気をつけられた」 間接受身で迷惑でないケースもある。「美人が微笑む」「美人に微笑まれてドキドキした」 他動詞の間接受身もある。 φ 誰かが 図書館の本を 借りた 私は 誰かに 図書館の本を 借りられた。		
①能動文の動作主を不問にする場合。 長野でオリンピックが開かれた。					
②影響の受け手のほうが、影響の与え手より身近な場合 弟が知らない人に殴られた。					
③従属節の主語を、主節の主語に統一したい場合。 先生に叱られて、太郎は泣いた。					
④迷惑な気持ちを表したい場合。 私は友達におもちゃを壊された。		非情受身 動作主を不問にした用法。非生物が主語となる例外。直接受身の変異種 カラオケ大会が 開かれた。 主催者は不問 この寺は100年前に 建てられた。 建立者は不問。 ※書き言葉では無生物を主語とした受身文が多く用いられる。			
1グループ	書く		書かれる	あれる	
五段活用	読む		読まれる	are-ru	
	話す		話される		
2グループ	見る	見られる	られる		
一段活用	食べる	食べられる	rare-ru		
3グループ	来る	来られる	られる		
不規則活用	する	される	rare-ru		
動詞の受身の活用は、全て「下一段活用」になる。		持主受身 間接受身文だが対応する能動文がある。主語に無生物不可で他動詞の目的語の位置が変化しない。 φ 誰かが 私の足を 踏んだ。 能動文 φ *私の足が 誰かに 踏まれた。 一般ルールを受身 = 非文: 非情物は主語にならない 私は 誰かに 私の足を 踏まれた。 持ち主の受身 私は 誰かに 財布を 盗まれた。 持ち主の受身 マイナス表現: 私は部屋でタバコを吸われた。工事車両に道をふさがれた。私は友達に娘をなじられた。 プラス表現: 私は友達に服を褒められた。私は母に頭をなでられた。			
未然	書かれ		読まれ	見られ	され
連用	書かれ		読まれ	見られ	され
終止	書かれ		読まれ	見られ	され
連体	書かれ		読まれ	見られ	され
仮定	書かれ		読まれ	見られ	され
意向	書かれ		読まれ	見られ	され
命令	書かれ		読まれ	見られ	され
「ら」抜き言葉: 2グループのられるの「ら」が抜ける 「見られる」→「見れる」「食べられる」→「食べれる」 「読まれる」1グループは「ら」が無い。		受身形に似た他動詞を区別すること。 紛れる 憧れる 呆れる	「によって」受身文。 作成者/生産者/破壊者の時は「によって」適応 清少納言が枕草子を書いた。枕草子は清少納言によって書かれた。		
		三上章: [能動詞]直接受身が成り立つ他動詞 (書く/食べる/する) 間接受身になる自動詞 (いる/死ぬ/泣く) [所動詞]受身にならない自動詞: 意思性のない自動詞 (ある/要る/消える/できる)			

使役形		基本 ヴォイス		□主体（使役主）が他の主体（動作主）に働きかけを及ぼす用法。 □長形と短形があるのは使役表現だけ。 □サ行五段活用では短縮形が無い。押す/話す/貸す					
1グループ 五段活用	書く 読む 話す	書か せる あせる 読ま せる ase-ru 話さ せる	書か す 読ま す 無し	あす a-su	*書か させる 非文 *読ま させる 非文 話 させる	さ入れ言葉 さ入れ言葉 語幹のさ	さ入れ言葉 ：1グループ/五段活用のみで発生する 使役形の変種 である。2グループ、3グループの 「さす」「させる」を過剰に適応した結果と類推される		
2グループ 一段活用	見る 食べる	見 させる させる 食べ させる sase-ru	見 さす 食べ さす	さす sa-su	見 させる 食べ させる	使役のさ 使役のさ	使役に似た他動詞 見せる/着せる/寝かせる/起こす 見せる mi-se-ru 見せる-見させる（使役） 着せる ki-se-ru 着せる-着させる（使役） 寝かせる neka-se-ru 寝かせる-寝かさせる（使役）		
3グループ 不規則活用	来る する	来 させる させる させる sase-ru	来 さす さす	さす sa-su	来 させる させる	使役のさ 使役のさ			
特徴	□使役文は自動詞文からも他動詞文からも作ることができる。				他動詞文 目的格に「ヲ格」を使用しているので、使役相手は「二格」になる。				
	自動詞文 使役相手は「二格」または「ヲ格」となる。				子供 が 部屋 を 掃除する。				
	動作主に意志がある場合、使役相手は「二格」or「ヲ格」				母親 が 子供 に 部屋 を 掃除させる。				
	学生 に 勉強させる。 二使役文 学生 を 勉強させる。 ヲ使役文				使役は動作の主体が有情物の時に使える。無情物の時は原則他動詞を使う				
強制	動作主に意志が無い場合、使役相手は「ヲ格」だけ。				母親が 娘に 服を 着させた。 使役形				
	毎日水をやって 花 を 咲かせた。				母親が 娘に 服を 着せた。 他動詞				
	毎日水をやって 花 *に 咲かせた。（非文）				娘が 人形に 服を *着させた。（非文）				
					娘が 人形に 服を 着せた。 他動詞				
許可	本人の意思と関係なく強制的に働きかける。（使役主の意思性が高い） 警官が不審車を停止させた。 / 母親が子供に掃除を手伝わせた。				使役受身 使役の用法とは異なり、したくないことを強制的にさせられたという意味だけになる。				
指示	本人の意思を尊重してやらせる。（動作主の意思性が高い。） 子供を自由に公園で遊ばせた。 / 留学で娘をドイツに行かせた。				1グループ 短縮形	書く 書く	書か せる 書か す	書か せ られる 書か さ れる	短縮形は1グループ のみにある。
自責/遺憾	社長が秘書にタイプを打たせた。				2グループ	見る	見 させる	見さ せ られる	
介護/給仕	子供を事故で死なせてしまった。（使役主/主体ともに意思性が無い）				3グループ	来る する	来 させる さ せる	来さ せ られる させ られる。	
原因	ミルクを飲ませる時間です。				能動文	部下が 残業する。（自動詞文）		子供が 本を読む。（他動詞文）	
放任	この努力が、作戦を成功させた。 高校合格が親を喜ばせた。				使役文	上司が 部下に 残業させる		先生が 子供に 本を読ませる。	
放置	そのまま眠らせておいた。				使役受身文	部下が 上司に 残業させられる。		子供が 先生に 本を読まさせられる。	
誘発	風呂に水を溢れさせた。 水を溢れさせるな。				□感情や思考が引き起こされる使役受身				
	彼はいつも人を笑わせている。 親を泣かせる。髪をなびかせる。胸をときめかせる。先生を困らせる				あの人の態度には関心 させられた。 / 彼にはがっかり させられた。				

可能形		サブ ヴォイス		基本文と可能文では視点は移動しない。受身のように格助詞の交代はない。可能文は動作は表さない。状態・性質を述べる。非状態動詞（動作動詞）から状態動詞を作るということ。可能形＝無意志動詞。						
状態性質を述べる		基本文	ファンがアイドルに 会う。	動作の実現＝非状況動詞：五段活用			状況可能：「考えられる」			
		可能文	ファンがアイドルに 会える。	状態の実現＝状況動詞：下一段活用に变化			データによれば、原因は複数考えられる。			
能力可能	人が持っている能力的に可能な表現。		注意	中国語が	話せる。	社員	話すの可能形			
	彼は100mを11秒で 走れる。			腹を割って	話せる。	友人	話すの可能形			
	彼女は1切り以上も 泳げる。			悪口はいくらでも	話せる。	話すの可能形				
	私、全然 泳げない。			意外に	話せる	上司。	可能形ではない。物分かりの良い上司			
	彼女はピアノが 弾けます。			可能形		意志動詞を無意志動詞に変える。		書けられる→書ける：可能動詞		
彼女は英語が 話せます。		1グループ		語幹 + eru	書く	書ける	可能動詞は1グループのみ。			
状況可能		子音語幹動詞			読む	読める	可能動詞は下一段活用「工段」			
状況や条件によって、できる/できない表現。		五段動詞		語幹 + rare	話す	話せる	可能動詞は命令形が無い。			
客観的状況可能		2グループ			行く	行ける	慣用として「行かれる」が残る			
(衛生上) この水は 飲めない。		2グループ		語幹 + rare	食べる	食べられる	母音語幹 + 「られ/られる」			
このプールは9月まで 泳げる。		母音語幹動詞			寝る	寝られる	ら抜き言葉が発生する。			
この店はタバコが 吸える。		一段動詞			見る	見られる	書き言葉は不可だけど、口語では			
この店ではピアノが 弾ける。		3グループ		来る	来られる	できる	受身/自発/尊敬との区別で容認方向			
20歳なのでお酒が 飲める。		不規則動詞					する	使用可能	使用するー使用できる	
(体調不良で)お酒が 飲めない。										
怪我をしたので 泳げない。										
可能形の特徴				ら抜き言葉：可能形の変種 2グループと「来られる」に発生する						
① 可能形は意志動詞のみで、自然現象など無意志動詞は可能形にはならない。				「食べられる」から「ら」を欠落させる。「食べれる」						
*雪が 降れる。 非文				「来られる」から「ら」を欠落させる。「来れる」						
*星が 輝ける。 非文				可能形の分化：「見れる」を容認して差別化することを目指す。						
② 可能の目的語は一般に「が」と「を」の両方が使える。 私は太郎が/を好きだ。(好悪表現)				見られる＝受身/尊敬/自発と形が同じである。						
彼は フランス語 が 話せる。 本が/を買いたい。(願望表現)				書く→書ける と同様に 見る→見れる とする方向。						
彼は フランス語 を 話せる。 私は英語が/を話せる。(可能表現)				れ不足言葉：可能形の変種 1グループに発生する						
□可能形と「好きだ」好悪表現は目的格は「が」が正しいとされてきた。				子音語幹動詞の可能形に不要な「れ」を足す言葉。						
格助詞の使い方の例外をなくす単純化方向へ進んでいるため「を」も使用可能。				書く-書ける-書ける 行く-行ける-行ける						
③ 可能形の動作主が「に」で示されることがある。動作主をマークする二格。				同化方向		読む	読める	読めれる	れ不足言葉	ら抜きれ不足
あいつ に ピアノが弾けるわけがない。				単純化		見る	見られる	見れる	ら抜き言葉	*見れる

自発		サブ ヴォイス		意図的でないことで、自然にそうなることを言い表す表現。	
自発動詞	自発動詞 = 自発の意味を持つ動詞 「見える」「聞こえる」		可能形自発	泣ける	あの番組は泣けた。
	見える	綺麗な星が 見える。		笑える	あの番組は笑えてしょうがなかった。
受身形自発 感情形容詞で限定	聞こえる	鳥の鳴き声が 聞こえる。	見られる	ここは星がたくさん 見られる。	東京では鳥の鳴き声はあまり、聞けない。
	悔やむ	この失敗は、悔や まれる 。	聞ける		
	思い出す	昔の事が思い出 される 。	見る- 見える (自発動詞) - 見られる (可能形)		聞く 五段活用
	思う	泥棒は裏口から入ったと(ように)思 われる 。	聞く- 聞こえる (自発動詞) - 聞ける (可能形)		kik-u kik-eru
	感じる	季節の変化が感じ られる 。 ※自発の「ように」	□可能形は主体の意識的なかわりが強くなる。		Yom-u Yom-eru
	想像する	結果は簡単に想像 される 。	ここから、北斗七星が見える。(自発)		見る 上一段活用
	偲ぶ	故郷が偲 ばれる 。	山を登れば、北斗七星が見られる。(可能)		mi mi-rareru
認識の主体	思われる：認識の主体は自分 考えられる：客観的		自発と可能を見分ける		能力が高められる = 高めることができるに言い換え可能 自発ではなく、可能形である。感情動詞でもない。
	彼は裏口から入ったと思 われる 。 彼の遅刻は考えられる 思 われている ：認識の主体は他人。広い主体 (様々な人) 彼は変な人だと思 われている 。				